

第Ⅲ章 資料編

第1節 風水害等における心構えと用語集

第2節 心のケア

第3節 防災に関連する施設紹介

第4節 学習指導要領における防災教育の取扱い
(抜粋)

第1節 風水害等における心構えと用語集

風水害の危険（台風・大雨）が迫ったら？ ～行動と判断～

普段から

学校・自宅周辺の状況を知る

- ☑ 大雨で崩れそうな斜面やあふれそうな川の確認
- ☑ 大雨のときに浸水する場所の確認

避難方法を決める

- ☑ 避難する場所、方法、連絡先を決めておく

風水害情報のチェック

- ☑ テレビやラジオ、インターネット等から必要な情報を得る



©気象庁

接近前

(2日前～)

家の外を整える

- ☑ 窓や雨戸の戸締り
- ☑ 水はけの悪い場所の掃除
- ☑ 倒れやすいもの、飛ばされやすいものの固定・撤去

非常時の備え

- ☑ 水・食料の確保
- ☑ 懐中電灯の準備
- ☑ 非常持ち出し品の確認



©気象庁

すみやかな避難

- ☑ 「危ない！」と感じたら、近所の人と連絡を取り合い、早めに避難の準備

通過中

風水害情報のチェック

- ☑ テレビやラジオ、インターネット等から最新の情報を得る

危険な場所に近づかない

- ☑ 高潮や浸水、増水した川や土砂災害が発生しそうな場所には近づかない

通過後

危険箇所の確認

- ☑ 学校・自宅周辺に危険なところがないか確認
- ☑ ガス・危険物が漏れていないか確認

参考 佐世保市役所「災害自己診断シート」

気象の用語、知っていますか？

気象用語	気象の状態
特別警報	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重大な災害の危険性が著しく高まっている場合に発令 ・ 最大限の警戒が必要で、直ちに命を守る行動をとる
警報	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重大な災害が起こるおそれがあるときに警戒を呼びかけるために発令
土砂災害警戒情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大雨警報が発表されている状況で、土砂災害発生の危険度がさらに高まったときに発令 ・ 住民の自主避難の参考となる
記録的短時間大雨情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大雨警報が発表されている状況で、雨の降り方が災害の発生につながるような、まれにしか観測されない雨量であることを知らせるために発令

■ 「雨の降り方」と「風の吹き方」

集中豪雨は、「梅雨の終盤」、「台風が接近しているとき」、「雷雲が次々と発生しているとき」に起こり、河川の氾濫をはじめ、家屋への浸水、道路の冠水、土砂崩れやがけ崩れ、地滑りなどが発生します。



1時間雨量 (mm)	雨の強さ (予報用語)	屋外の様子
20～30	強い雨	側溝や小さな川があふれ、小規模ながけ崩れが起こる
30～50	激しい雨	山崩れ・がけ崩れが起きやすく、避難の準備が必要
50～80	非常に激しい雨	土石流が起きやすく、多くの災害が発生
80以上	猛烈な雨	大規模な災害が発生するおそれ強い

台風は、自然災害の中でも唯一、事前に正確な情報を得ることができる災害です。規模や勢力を知っていれば、被害を受ける前に何らかの対策を行うこともできます。台風は強い風だけでなく、大雨にも注意が必要です。



©気象庁

平均速度 (m/s)	風の強さ (予報用語)	屋外の様子
20～30	非常に強い風	木が倒れはじめ、屋根瓦が飛散しはじめる
30～35	猛烈な風	養生が十分でない仮設足場が崩落する
35～40		多くの樹木が倒れ、ブロック塀や電柱が倒れるものがある
40以上		家屋で倒壊するものがある

※平均速度が30m/s以上では、屋外での行動は極めて危険である。

参考 佐世保市役所「災害自己診断シート」